

# やつおもて

第13号 (2016年11月)  
編集発行：和田公民館  
協力：公民館運営推進委員  
電話：(45-1918)  
eメール:wada-k@ph-hamada.jp



## ～和田地区いろいろ見て歩く記～

む～らのちんじゅの  
か～みさまの～



きよ～おはめでたい  
お～まつりび～



秋祭りの季節がやって来ました。皆さんいかがお過ごしでしょうか？秋は新米や果物、栗にサツマイモとおいしい食べ物が盛り沢山で嬉しい事です。が「天高く馬肥ゆる秋」という言葉が頭の片隅を行ったり来たり・・・悩ましい日々です。(つぬ)

### 【和田の歴史コーナー】

今回は、和田地区の名前の由来と集落の変遷について紹介します。

#### 《名前の由来》

- ◆和田村・・・水のわたまりたる里故名とせり「石見八重葎（やえむぐら）より」
- ◆重富村・・・昔天下太神御通り給ふて、重く留まります里故名とせり「同上」
- ◆本郷村・・・本郷は寛文印知集にも、ただ本郷とのみあり、古の玉枝郷なりという。されど一般に本郷とのみ言い他の本郷と区別するために和田本郷といいしことあれども、公称にあらず「那賀郡誌より」

#### 《集落の変遷》

和田は昔淋しいところで、狐狸が出没していたが、谷尾茂右衛門が庄屋になって（元禄3年）から開拓したというように伝えられているが、谷尾来住以前から和田八幡宮、小室山権現、醫王寺等々のあった事実から見ても、また、ここが浜田と広島を結ぶ主要往還道であった点から考えても誤りである。

さみしい純農村ではあったが、元禄前後から貨幣経済の発達に伴って物資交換の中継点として発達するに至ったと考えるべきであろう。当時は今市が宿場町であったから谷尾が努力して和田を商業の中心としたのであろう。明治から大正の荷車、馬車交通の時代には、家数60余戸もあり、牛市の繁栄もあって昭和10年前後までは宿屋3～4軒もあって浜田～広島間を往復する人々が宿泊していたという。飲食店3～4軒、豆腐屋3～4軒魚屋、酒、醤油の醸造家もあり、都川から塩買いにも来ていたという。年末の市日には、諸方の人々が集まって賑わっていた。

経済的には今市よりも優位にあり、今市から和田へ借金に来る人々もあったという。和田が経済的に優位にあった時代には村役場は和田にあり、他地区の経済力向上に伴って役場が村の中央重富に移された。という見解もある。

(全文旭町誌上巻より抜粋)



★石田春律 (いしだ はるのり) 1757-1826 江戸時代中、後期の農学者  
石見の国太田村 (現江津市) の庄屋。1817年石見八重葎 (地誌) 13巻を刊行  
天明の飢饉に際しては開墾につとめサツマイモの栽培法の改良をした

## 表彰おめでとうございます！

戸川の百歳体操グループ「お友達の会」の皆さんが体操を1年間継続されました。皆さんの頑張りを称え、

### 「健康づくり活動 実践賞」

が、旭支所市民福祉課長から贈られました。人は地域の宝物です。これからもますますお元気で活動されますことを祈念致しております。



戸川の「お友達の会」の皆さん

続いては和田地区に伝わる伝説のコーナーです



## 和田の牛淵

—「防六をあおぎて」より—

～前編～

重富川の下流の岡谷に深い淵がある。ここは昔から「雨を降らす龍が住んでいる」と云われていた。

昭和14年の夏。毎日毎日、日照りが続き、田んぼも畑も干上がり、飲む水まで困るようなありさまになった。和田の人々はなんとかせんと日干しになって死んでしまう。いい案はないものだろうか？と長老たちが寄り集まって思案顔だ。

「わしゃあ毎日水神さんに手を合わせているんじゃがのオー」と老いた婆は息も絶え絶えだ。「わしゃあ淵まで行って手を合わせて拜んだでエ～。いるんなら出てきてこんな時こそ雨を降らして貰いたいと思ってな」「拜み倒してダメならこんなのはどうだ？」と物知りの秀さんが口を開いた。「ある旅の行商人の話だが、若い娘に淵の上で赤い腰巻を振り振り“やれのォ～、やれのォ～”と言って踊って貰うんだわ」いわゆる「雨乞い」だ。しかし「若い娘と言っても・・・」と顔を見廻していると「若いだけじゃダメだ。べっぴんでなきゃあ！」と興奮しきった秀さんが叫んだ。

「落ち着け、お前が興奮してどうするんじゃ」と長老にたしなめられたその時、「わしじゃあ、ダメかいのォ」と1人の後家さんが手を挙げた。《つづく》  
(文・絵 佐々岡健次)



さて、この後家さんはうまく雨を降らすことが出来るのでしょうか？  
次回、後編をどうぞお楽しみに！

## ベンソン陽子の海外便り 第3回

日本の9月というと、「2学期開始」というイメージがありますが、アメリカでは新しい学年が始まる月です。多くの学校は8月の初めからもう夏休みが明けています。ベンソン家の子供たちも今年は8月8日から学校開始でした。新しい学年や学校に備えて、生徒たちは新しいバックパック(日本語でいうリュックサック)、文房具、服や靴を買い揃えてきます。

アメリカの公立学校は制服のないところが多いです。我が家の長女の小学校は、公立ですが制服がある学校なので、毎年新しいポロシャツとズボンやスカートを買って揃えることになります。日本のように規定のお店で買わないと



いけないというルールはないので色さえ合っていればどこのお店で買っても大丈夫です。それから9月というと、だんだん涼しくなる季節、と書いていいと思いますが、アメリカの高緯度などところでは9月に雪が降ることがあります。そんな時は「昨日は暑くて半袖だったのに今日はセーターだね！」という会話になります。私たちが以前住んでいたコロラド州がそうで、夏服と冬服をいつも出しておくのが習慣でした。

現在住んでいるジョージア州は日本と同じで四季があります。ただ、南部なので真冬でも暖かい日があり、雪が年に数回しか降らないということもあり比較的過ごしやすいと思います。

そしてアメリカで9月といえばフットボールが始まるシーズンです。



日本で野球が非常に人気なのと同じで、アメリカで一番人気のスポーツはフットボールです。テレビ中継がある日(プロの試合は日、月、木曜日にあります)は皆ジャージーを着てテレビの前に座ります。ふつうは「スナック」といって、ポテトチップスやスティック

野菜、ピザや手羽先(英語でウイングといいます)を食べながら試合を見ます。ベンソン家も例外ではなく、毎週日曜日はフットボール三昧です。私自身以前はフットボールには全く興味がなかったのですが、アメリカに引っ越したとたん夢中になってしまいました。たまにNHKの衛星でプロの試合を放送しているのでまた皆さんも見てください、おもしろいですよ!(文・写真 ベンソン塚崎陽子)

## 公民館からのお知らせ

この度、芳川義孝さん（大阪在住）から碁盤と碁石を2組寄贈して頂きました。誠に有難うございました。

これを機に皆さんに公民館で囲碁を楽しんでもらえると嬉しいです。多くの方のご来館をお待ちしています。



### 小学生人権標語テスト入選作品

# 見つけよう 一人一人の いいところ

## 館長の今月の一言

実りの秋、祭りの秋、紅葉の秋です。  
紅葉に先駆けて、ナナカマドが実を紅く染めます。  
ナナカマドは七度、かまどに入れても燃えないのでナナカマドと言われています。



ナナカマドの実



秋鹿が身をば紅葉に隠せども

恋路になれば声は惜します

恋路になれば声は惜します

～神楽歌より～



次は

～つぬちゃんのこんなのやりましたコーナー～



7月25日～27日に和田地区の中学生と県立大学の学生ボランティアに協力してもらい、「ふるさと再発見事業」を行いました。今年度は、「春・夏・秋・冬・歴史・いろいろ」と6つのテーマ毎に自分たちが住んでいる地域のいいもの・ひと・ことを見つけて人気ランキングや地図を作成しました。地域のいいところは既存のものに限らず中学生の目線で見た物を探して貰いました。また、この作業はご家族にも協力をお願いしました。この結果は、一般の部の結果と共に掲示用地図の作成、ウォーキングコース策定の材料として活用していきたいと考えています。

## あ と が き

柿のシーズンになりました。昨年私としては珍しくよそのお宅に柿を貰いに行ってまで干し柿を作りました。それなのに残念！カビがはえてしまいました。何がいけなかったのか、他の人にもやり方を聞いて“さあ、今年は失敗しないぞ！”と気持ちだけはいっぱいなのですがどうなることやら・・・そんな思いがあるのでつい通りすがりの柿の木が目につけてしまいます。“あ～あその柿、干し柿にしないのかな～もったいないいな～”年と共にだんだん欲張りになってきました。(美)